

日本新産キヌイトガサネについて (新称)  
*Antithamnion gardneri* G. DE TONI について

梅 崎 勇\*

I. UMEZAKI: On *Antithamnion gardneri* G. DE TONI new to Japan

N. GARDNER (1927) は米国カリフォルニア, ラ・ホヤ海岸より紅藻類イギス目イギス科に属する *Antithamnion tenuissimum* GARDN. なる新種を報告した。しかし, G. DE TONI (1936) は V. SCHIFFNER (Studien über Algen des adriatischen Meeres, 1915, p. 140) によって, 既にアドリア海より同名種 (*Antithamnion tenuissimum* (HAUCK) SCHIFFNER=*Antithamnion cruciatum* f. *tenuissimum* HAUCK, 1885; *Callithamnion cladodermum* HAUCK, 1878) が発表されていることにより GARDNER の新種名に対し, *Antithamnion gardneri* G. DE TONI なる新称を与えた。J. TOKIDA (Phycological observations V, 1942, p. 92) は GARDNER の新種名に対し, G. DE TONI と同様に *Antithamnion gardneri* TOKIDA なる新称をなしたが, それは G. DE TONI の発表後であるために, 命名規約に基づけば無効となる。

GARDNER は本種の発見の際に, 生殖器官として, 四分孢子嚢を報告したが, 雌雄両生殖器官を観察しなかった。筆者は 1958~1960 年の春~夏期間に, 大阪府泉南郡岬町みさき公園自然水族館において本種の大量の発生を発見し, その四分孢子嚢の他に精子器の形成されているのを観察することが出来た。しかし, 雌性生殖器官を発見することが出来なかった。なお, 本種は日本新産種であり, 精子器は今回初めて観察されたのである。

キヌイトガサネは上記水族館の屋内第一水槽 (サメ類, ウミガメ類が入っている) の水底, 周囲の岩, 小石, コンクリート壁および硝子壁面に一面に密生して発生した。時々, 多数綿状の団塊として水面に浮遊してみられた。

*Antithamnion gardneri* G. DE TONI

Noterelle di nomenclatura algologica, V. L'*Antithamnion tenuissimum*

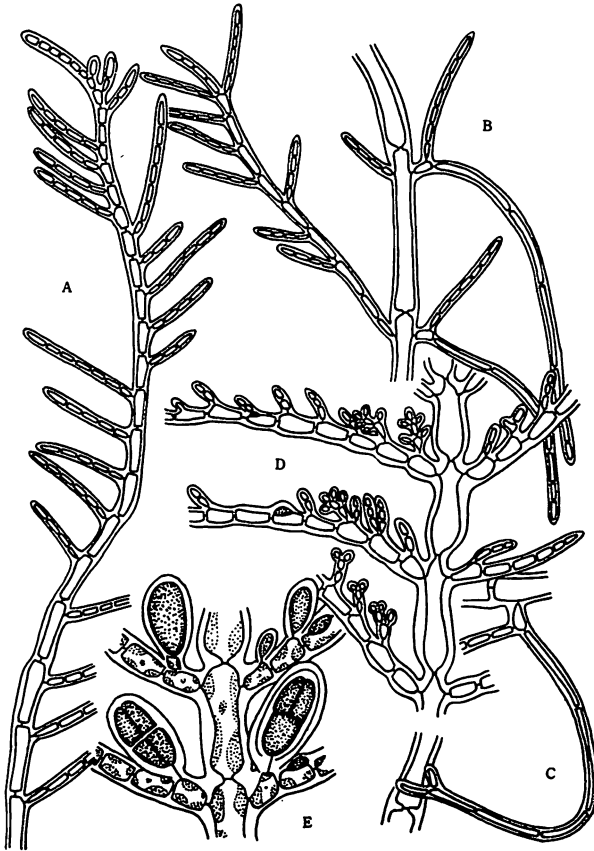
\* 京都大学農学部水産学教室

Department of Fisheries, Faculty of Agriculture, Kyoto University

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XI. No. 1, April 1963

GARDNER, Brescia 1936 ; DAWSON, A guide to the literature and distribution of the marine algae of the Pacific coast of North America (Mem. South Calif. Acad. Sci., vol. 3, 1946), p. 94.

*Antithamnion tenuissimum* GARDNER, New Rhodophyceae from the Pacific coast of North America ; IV (Univ. Calif. Publ. Bot., vol. 13, 1927),



**Fig.** *Antithamnion gardneri* G. DE TONI (キヌイトガサネ)

A, apical part of the plant.  $\times 50$ . B, middle part of the plant.  $\times 50$ . C, showing a rhizoid attached to another filament.  $\times 75$ . D, branches with antheridia in various stages.  $\times 130$ . E, basal parts of branches with tetrasporangia.  $\times 130$ .

p. 377; DOTY, The marine algae of Oregon, part II, Rhodophyta (Farlowia, vol. 3, 1947), p. 190.

植物体は鮮紅色，繊細にして2~6 cm 高い，その基部にて固着し，互いに密生する。主枝の直径32~50  $\mu$ ，その細胞は180~300  $\mu$  長く，直径の5~8 倍長い。主枝より対生または数細胞毎に扁生する小枝を出す。小枝の直径は12~15  $\mu$  で，8~9 個細胞よりなる。その細胞は直径の1.5~2 倍長い。腺細胞は小枝の細胞の上側に形成され，紡錘形，直径は12~15  $\mu$ ，高さは5~7  $\mu$  である。普通小枝に1 個ずつある。仮根は小枝の基部細胞より突起を出し，後に伸長して形成される。分岐することはない。しかし，稀に，その端部が2 叉状に分岐して他物に付着する役目をなしていることがある(図c)。3~7 細胞よりなり，直径は11~15  $\mu$ ，長さは25~150  $\mu$  がある。四分胞子嚢は小枝の上面に形成される。1 個細胞の有柄のものや無柄のものがある。直径は24~45  $\mu$ ，長さは40~75  $\mu$ ，卵円形である。多くは十字形に，または三角錐形に分割される。精子器は植物体の上部の小枝に形成される。その小枝の基部細胞から順次先端細胞の方へ形成され，常にその上側に発生する。小枝細胞の上端部が突出し，ついで小枝細胞から横に走る隔壁で仕切られる。さらに上方へ1 列に，1 または2 細胞を分裂形成し，2~3 細胞となる。その各細胞の側面または上方に2~3 個ずつの精子を形成する。ここに精子器托が完成される。精子は無色で，直径2.5~3  $\mu$  がある。

和名： キヌイトガサネ (新称)。

産地： 大阪府泉南郡岬町淡輪。みさき公園自然水族館屋内第一水槽。1958~1960 年4~8 月。(標本は舞鶴市長浜。京都大学農学部水産学科腊葉室に保管)。

GARDNER は本種の原記載において，四分胞子嚢は無柄で，その直径は18~22  $\mu$ ，長さは34~38  $\mu$ ，三角錐形に分割されると報告している。しかし，今回採集された材料では，その四分胞子嚢は無柄のものや，または1 細胞よりなる有柄のものもあった。また，その大きさもやや大きいものである。DOTY, M. S. (1947) もまた，米国オレゴン州の材料で50×70  $\mu$  という大きい四分胞子嚢を報告している。さらに，四分胞子嚢の多くはヨツガサネ属に特有なる十字形に分割し，時々，三角錐形に分割するものもみられた。

最後に，G. DE TONI の文献につき御教示いただいた時田郁先生に，さらに材料を時々採集していただいた米田勇一先生，浅野博利博士並びに荒賀忠

一氏に謝意を表します。

### Summary

This paper deals with *Antithamnion gardneri* G. DE TONI (Rhodophyta) found in an aquarium at Misaki Park, Misaki, Osaka; this is new to Japan. Antheridia are newly described and their developmental process is observed. Most of the tetrasporangia are divided cruciately, some tetrahedrally as in its original specimens. The sporangia are sometimes one-cell stalked or sometimes sessile.

## 本邦新産淡水 Plankton の数種について

秋 山 優\*

M. AKIYAMA: Notes on Some Newly Found Fresh-water  
Plankton Algae from Japan

本邦の淡水産 plankton については、かなり古くから多くの研究がなされており、最近では平野\*\*、根来\*\*\*、広瀬等\*\*\*\*による研究により、さらに多くの新知見が加えられつつある。筆者もまた、最近山陰地方の淡水藻類相の調査において、いくつかの本邦新産と考えられる藻類を得たが、その中から属としても本邦未報告の Chlorophyceae の 3 属 3 種、Xanthophyceae の 2 属 2 種、Dinophyceae の 2 属 2 種について、ここに記載報告をしたい。

### CHLOROPHYCEAE

緑藻では Chlorococcales の Oöcystaceae に所属する *Polyedriopsis spinulosa* および *Franceia tuberculata* が、また Scenedesmaceae に所属する *Tetrallantos lagerheimii* が認められた。

\* 島根大学文理学部生物学教室

Biological Institute, Faculty of Literature and Science, Shimane University, Matsue, Japan.

\*\* 平野実 (1952) 分地 XIV: 165-173, (1953) 藻類 1: 69-72, (1954) 分地 XV: 161-164, (1956) 同 XVI: 101-105, (1956) 同 XVI: 170-173, (1959) 陸水雑 20: 160-166, 185-186, (1962) 分地 XIX: 33-38.

\*\*\* 根来健一郎 (1954) 滋賀水試報 1-40, (1956) 陸水雑 18: 37-46, (1959) 京大紀要 Ser. B. XXVI: 311-314, (1960) 同 XXVII: 145-150.

\*\*\*\* 広瀬弘幸他 (1960) 陸水雑 21: 104-108, (1962) 植雑 75: 140-142.

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XI. No. 1, April 1963